慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	1860年のパリ・ オペラ座バレエ学校の生徒の居住地の傾向： 19世紀後半のパリにおける都市空間と子どもに関する一考察
Sub Title	The tendencies of Paris Opera Ballet School students' residences in 1860 : a study on urban space and children in late 19th century Paris
Author	永井, 玉藻(Nagai, Tamamo)
Publisher	三田哲學會
Publication year	2024
Jtitle	哲學 (Philosophy). No.153 (2024. 3) ,p.101- 120
JaLC DOI	
Abstract	In 19th-century France, the Paris Opera was a prestigious social venue and a place of work for the city's residents. Among the various artists who performed at the Opera, were ballet dancers and students. Their daily lives were depicted in 19th-century artworks and literature, revealing the difficulty in their life. However, historical records, particularly those related to ballet school students, are limited, primarily because they were mostly teenagers, making detailed information hard to come by. In this paper, an analysis is attempted using three historical documents stored in the Archives Nationales de France, AJ/13/479. These documents include records of "Young Female Beginners in the Class in April 1860 (Jeunes éléves de la Classe élémentaire au mois d'Avril 1860)," "Young Ladies of the Third Quadrille with Bonuses (Jeunes Demoiselles des Feux (3e quadrille))," and "Young Boys (Jeunes Garçons)." The analysis aims to uncover the trends in the residences of ballet school students in the 1860s. This paper aims to shed light on the characteristics of the living arrangements of ballet school students and dancers during this period.
Notes	投稿論文
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000153-0101

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese

Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

1860年のパリ・オペラ座バレエ学校の生徒の居住地の傾向

―19 世紀後半のパリにおける都市空間と子どもに関する一考察―

永　井　玉　藻*

The Tendencies of Paris Opera Ballet School Students' Residences in 1860: A Study on Urban Space and Children in Late 19th Century Paris

Tamamo Nagai

In 19th-century France, the Paris Opera was a prestigious social venue and a place of work for the city's residents. Among the various artists who performed at the Opera, were ballet dancers and students. Their daily lives were depicted in 19th-century artworks and literature, revealing the difficulty in their life.

However, historical records, particularly those related to ballet school students, are limited, primarily because they were mostly teenagers, making detailed information hard to come by.

In this paper, an analysis is attempted using three historical documents stored in the Archives Nationales de France, AJ/13/479. These documents include records of "Young Female Beginners in the Class in April 1860 (Jeunes éléves de la Classe élémentaire au mois d'Avril 1860)," "Young Ladies of the Third Quadrille with Bonuses (Jeunes Demoiselles des Feux (3e quadrille))," and "Young Boys (Jeunes Garçons)." The analysis aims to uncover the trends in the residences of ballet school students in the 1860s. This paper aims to shed light on the characteristics of the

* 慶應義塾大学文学部非常勤講師

living arrangements of ballet school students and dancers during this period.

序

19 世紀のフランスにおいて，パリ・オペラ座（以下，オペラ座と略記）は，当時を代表する第一級の社交場だった．ル・ペルティエ通りにあった本拠地劇場，サル・ル・ペルティエには，毎晩多くの観客がつめかけた．一方で，オペラ座は，メルシエが『タブロー・ド・パリ』で述べる通り（メルシエ 1989: 155–156），パリ市民の労働の場のひとつでもあった．また，オペラ座には附属のバレエ学校，エコール・ド・ダンス（以下，バレエ学校と略記）があり，プロのアーティストになる以前の生徒たちがダンス教育を受けていた．

このバレエ学校や，学校に通う生徒については，さまざまな形での記述がなされてきた．一例として，テオフィル・ゴーティエ Théophil Gautier（1811–1872）のエッセイ『ネズミ Le Rat』がある．後述するように，この『ネズミ』では，19 世紀前半のバレエ学校に通う子どもたち，特に女子生徒の日常の典型例が示されている．

一方，19 世紀の美術作品にも，オペラ座バレエ団のダンサーたちの姿が登場する．エドガー・ドガ Edgar Degas（1834–1917）の彫像作品《14 歳の小さな踊り子 La petite danseuse de quatorze ans》のモデルとなったマリー・ヴァン＝ゴーテム Marie Van Goethem（1865–?）は，彼女の姉妹と同様，バレエ学校のレッスンに通う生徒だった．ベルギーからの貧しい移民の家庭に生まれた彼女は，同時期の他の生徒と同様に恵まれない生活を送り，最終的にはバレエ学校から放校され，姉ともに娼婦として生きたことがわかっている（Laurens 2019: 25–26）．

このように，19 世紀後半のバレエ学校の生徒に関するエピソードは様々に残っており，当時のアーティスト予備軍の生活実態を把握する助けになっている．一方，生徒たちに関する歴史的資料の調査分析は，これまで

積極的にはなされてこなかった．先行研究としては，ジャク＝ミオシュ（Jacq-Mioche 2013）やドゥラットル（Delattre 2013）などがあり，前者はバレエ学校の創設時から第一帝政期まで，後者は 19 世紀の場合を扱っているが，いずれも概論的なものに留まっている．その理由は第一に，10 代の子どもがほとんどである生徒たちについては詳細な情報が残りにくいこと，また第二に，19 世紀後半のバレエ学校自体に関しても，史料の現存状態が悪いことが挙げられる．そのため，生徒の生活実態，特にどのような居住環境の子どもが生徒として学んでいたのか，という点に関しては，限られた情報のみが繰り返し取り上げられてきた．

しかし近年，フランス国立公文書館や，フランス国立図書館の分館であるオペラ座図書館などが所蔵する，パリ・オペラ座関連のアーカイヴ資料の調査が進んだことで，劇場の運営規則をはじめとする，オペラ座の内部資料に光が当てられるようになった．ジルーとセールによる編集の，創立以来のオペラ座の規則集（Giroud et Serre 2019）はその代表例といえよう．また，アーティストや裏方の人員についても，雇用契約書などの史料が精査され始めており，オペラ座の活動を支えた被雇用者の実態を把握する有力な情報源となっている．

こうした近年の研究成果をふまえ，本稿では，19 世紀半ばのバレエ学校に所属した生徒の生活実態の一例として，1860 年にバレエ学校の初級女子クラスに在籍した生徒，および男子生徒や一部の女性ダンサーの居住地を分析し，傾向の抽出を試みる．考察対象の時期を 1860 年に設定したのは，本論で調査対象としたフランス国立公文書館所蔵のバレエ学校生徒の居住地リストが 1860 年に作成されたもので，同様の史料が現時点では他に確認されていないためである．その点で，当該史料は極めて稀なデータを提供するものであるといえよう．

本論では，まずバレエ学校の概要を把握し，1860 年代のバレエ学校に通う生徒や学校自体について，ゴーティエの『ネズミ』やバレエ学校に関わ

る諸規則を通して概観する．続いて，1860 年の初級女子クラス生徒，同年のオペラ座バレエ団女性第 3 カドリーユ，そして男子生徒の登録住所について，その傾向をフランス国立公文書館所蔵の資料に基づき分析する．これにより，「首都の最も貧しい地域」（Laurens 2019: 25）に居住していることが多いとされるバレエ学校の生徒たちについて，生活実態の一端を明らかにすることが，本論の目的である．

1. バレエ学校に関する基礎情報

1-1. 初期のバレエ学校について

パリ・オペラ座付属のバレエ学校「エコール・ド・ダンス」は，18 世紀初頭からの歴史を持ち，フランス派のバレエ教育の頂点に位置する，舞踊教育の専門学校である．この学校では，現在もパリ郊外のナンテール市にある校舎で，8 歳から 18 歳までの生徒たちがプロフェッショナル・ダンサーになることを目指し，日々の鍛錬と学業に励んでいる[1)]．

学校の創立は 1713 年，ルイ 14 世の勅令「スペクタクルの秩序に関する規則 Règlement concernant la police du spectacle」によってなされた（Giroud et Serre 2019: 30）．ただし，当時のバレエ学校が教育の対象としていたのは，すでにプロのダンサーとしてオペラ座で踊っている者だった．つまり，これからプロのダンサーを目指す者，特に子どもに関しては，バレエ学校の主たる教育対象とはされていなかった．そのため，初期のバレエ学校では，大人のダンサーの子どもたちも，大人に混じってレッスンを受けていたという（Jacq-Mioche 2013: 35）．

状況が変わったのは 18 世紀末である．1784 年に発布されたルイ 16 世の勅令，「王立音楽アカデミーの規則を含む国務院裁決 Arrêt du conseil d’état du Roi contenant Règlement pour l’Académie Royale de Musique」（AN: AJ/13/1886）において，バレエ学校には，すでに王立音楽アカデミーに在籍している場合を除き，12 歳以上の子どもは入学できないことが定めら

れている．一方，フランス革命後の 1807 年の時期には，入学時の年齢が 6 歳から 10 歳まで，と定められ，さらに低年齢化した（Jacq-Mioche 2013: 36）．また，授業のシステムも整備され，中でも男女別のレッスンがなされるようになったことと，優れたダンサーを育成するための「完成クラス Classe de perfectionnement」の設置は，その後の時代のバレエ学校にも引き継がれた．

19 世紀になると，生徒たちは学校在籍中から端役としてオペラ座の舞台に立った．後述のゴーティエの記述のように，劇場内を駆け回る生徒たちは，いつしか小ネズミを意味する「プティ・ラ Petit Rat」とあだ名されるようになった．これは現在でも，バレエ学校の生徒たちの愛称として用いられている．

1-2.　ゴーティエの『ネズミ』における記述

この愛称のもとに，19 世紀のバレエ学校の生徒の日常を綴ったのが，テオフィル・ゴーティエのエッセイ，『ネズミ』である．

ロマンティック・バレエの代表作《ジゼル》をはじめ，複数のバレエの台本を手掛けただけでなく，公演評などでも健筆を振るったゴーティエは，そもそもオペラ座バレエ団の熱狂的なファンの一人でもあった．『ネズミ』は，1866 年に出版されたゴーティエの作品集『虎の皮 La Peau de Tigre』[2] に収録された．それによると，「ネズミ」というバレエ学校生徒の愛称は，特に 8 歳から 15 歳ほどまでの女子生徒のことを指しており，16 歳ともなると「とても年老いたネズミ」なのだという．

低年齢のうちからバレエ学校で舞踊技術を学び，またオペラ座で仕事もする生徒たちの生活について，ゴーティエは「それに比べれば，馬車やガレー船の奴隷の生活は朝飯前」と述べる．というのも，バレエ学校の生徒たちは「遅くとも朝 8 時にはベッドから飛び起き」たあと，午前中は「クラス」と呼ばれるバレエの基礎レッスン，午後はオペラ座で出演する演目

のリハーサルに出席し，夜の舞台が真夜中近くに終演するまで働き続けるからである．その上，ダンサーによっては，公演後にオペラ座の上顧客である定期会員との夜食に行く場合もあり，その後は自宅に送り届けてもらうか，贔屓客の家に向かうことになった．食事の時間や休息時間がないわけではないが，今日よりも栄養状態の悪い 19 世紀に，10 代前半の少女が 12 時間以上も仕事をすることがいかに厳しいものか，簡単に想像できよう．

生徒たちのこうした過酷な生活について，彼女たちの保護者である親はどのように考えていたのだろうか．ゴーティエは，むしろ親（特に母親）が生徒たちの日常生活を管理し，仕事をさせていたことを記している．当時のバレエ学校の生徒たちは総じて下層階級の出身であり，だからこそ低年齢のうちから仕事をしなければならなかった．そして「ネズミ」たちの母親は，自分の娘に強力なパトロンがつくことを願い，上層階級の男性を惹きつける術を娘たちに積極的に仕込んでいた．「娘の慎重さが評判になればなるほど，競り値は高くなる．中には 6 万フランに達した娘もいる」とゴーティエが述べるように，「ネズミ」たちの親が娘に教え込むのは，家族の生活を支えるために，良い金銭条件での身売りをするための手法だった．

バレエ台本作家，批評家，またオペラ座バレエ団のスターダンサーだったカルロッタ・グリジの義弟として[3]，バレエ団やバレエ学校の事情に通じていたゴーティエの『ネズミ』は，1850～60 年代のバレエ学校の生徒の様子について，詳細な情報を提供してくれるものである．ただし，この『ネズミ』で，ゴーティエは生徒たちの仕事場，すなわちル・ペルティエ通りのオペラ座や，そのごく近くに位置するリシェ通りのバレエ学校校舎での様子を述べるにとどまっており，生徒たちがどのような地域に居住していたのか，という点については触れていない．

1-3.　1860 年のバレエ学校

一方，バレエ学校を一機関として見た場合，その状況はどのようだったのだろうか．フランス国立公文書館に所蔵されている，1860 年に作成されたバレエ学校に関する規則集「オペラ座の群舞およびバレエ学校の職務のための規則 Règlement pour le service du corps des ballets et du conservatoire de danse de l'Opéra」（AN: AJ/13/479）には，ゴーティエの『ネズミ』とは異なる角度から，当時の学校の一側面が示されている．この史料では，バレエ団の群舞（コール・ド・バレエ）の規則部分（第 1～27 条）に続いて，バレエ学校の規則（第 28～51 条）が記されている．

当該の規則集において，バレエ学校への入学は「7 歳未満または 10 歳以上の場合は」許可しない，とされていることから（第 34 条），フランス革命期の時期に定められた入学年齢は，ほぼそのまま引き継がれていることがわかる．クラスの編成は，①男子の初級クラス，②女子の初級クラス，③男子の中級クラス，④女子の中級クラス，⑤バレエの練習クラス，⑥上級クラスあるいは女性のための完成クラス，⑦特別に適性が認められた生徒のためのパントマイムクラス，の 7 つのクラスが設置されていた．入学を希望する子供に対しては，審査員による審査と，健康状態や体格に関する劇場専属の医師からのコメントがなされた．

晴れて入学が許可された場合，生徒の授業料は無料だったが，同時に生徒はオペラ座バレエ団の最下級ダンサーである「カドリーユ」として，5 年間は舞台に出演することを義務づけられた．在学中の生徒たちは，オペラ座以外の劇場で行われる興行に出演する事はできなかった．つまり，バレエ学校への入学は，学校の生徒になると同時に，オペラ座への出演者になる契約の意味も持っていたといえる．

2. 史料の分析と考察

2-1. 考察対象の史料について

19 世紀のバレエ学校に関わる史料は，フランス国立公文書館の AJ/13 系列に分類・保管されているオペラ座関連史料群に，主なものが含まれている．この AJ/13 系列の史料は，オペラ座の運営規則集である「カイエ・デ・シャルジュ Cahier des charges」や，劇場の被雇用者であるアーティストや裏方の個人記録，給与の記録といった，劇場の運営に直接関わる文書から，バレエやオペラの台本，アーティストによる落書きまで，極めて多岐にわたっており，史料が作成された年代も，フランス革命期以前から 20 世紀に至るまで幅広い．ただし，創立から現代に至る全てのオペラ座関連の史料が保管されているわけではなく，史料の残存状況にも規則性がない．

本論で調査対象として取り上げる，「1860 年 4 月の女子初級クラス Jeunes éléves de la Classe élémentaire au mois d'Avril 1860」，「ご祝儀[4] 付きの女性ダンサー（第 3 カドリーユ）Jeunes Demoiselles des Feux (3e quadrille)」，「男子生徒 Jeunes Garçons」は，AJ/13/479 の文書箱に保管されている史料のうちの一つである．AJ/13/479 は，19 世紀後半のオペラ座に関わった人員に関する様々な史料を含む文書箱の一つで，バレエ学校に関しては，報告書，学校の諸規則，バレエ団の諸規則，伝達事項や進言などの文書が大まかに分類されている．なお，AJ/13/479 の史料だけでなく，AJ/13 系列のその他の史料箱に収められた個々の史料には，個別の史料番号などは記載されていない．

2-2. 各生徒およびダンサーの居住地

以下，調査対象の史料である 3 点の史料に関して，「1860 年 4 月の女子初級クラス」を【表 1】，「ご祝儀付きの女性ダンサー（第 3 カドリーユ）」を【表 2】，「男子生徒」を【表 3】として，各々の記述内容を一覧化する．男子生徒については，初級あるいは中級の記載がないが，記載された生徒

の年齢から類推すると，両クラスの生徒を区別なく記録している可能性がある．

全ての表に共通する事項として，表中の記述は誤字なども含め史料内記載の通りである[5)]．また，表中左のハイフン付き番号（例：1-1）は，史料情報の整理上，便宜的に付加した番号であり，右の「番号」の項目の数字は，史料内で「順番 numéro d'ordre」として各生徒に振られた番号である．判別不可能な文字については「(？)」で示した．史料中で取り消し線が引かれた者については，記載の通りに表中でも線を引いた．

【表 1】　1860 年 4 月の女子初級クラス

	氏名 注）姓 → 名の順	生年月日	父母あるいは保護者の住所	クラスへの入学許可の日付	番号
~~1–1~~	~~Munier, Cinti~~	~~27, 7bre 1847~~	~~Chez sa mère,~~ 4 Rue Papillon	2, 7bre 1859	1
~~1–2~~	~~Mundt, Caroline~~	~~19 Août 1848~~	~~Chez sa mère, rue de la Santé 4 Batignoller~~	~~2 Janv. 1859~~	~~2~~
1–3	Ribet, Antonia	9 mai 1848	Chez ses père et mère 27 rue des Poissoniers. Mont.	1 Juillet 1859	3
1–4	Vaillant, Euphémie	29 mai 1848	Chez ses père et mère Faubg. St. Denis 105	2 Mai 1859	4
1–5	Read, Fanny	31 Mars 1848	Chez sa mère Chaussée Clignancourt 97	20 Juillet 1859	5
~~1–6~~	~~Piquart, Caroline~~	~~9 Janvier 1849~~	~~Chez sa mère faubg. St. Denis~~	~~7 Mars 1856~~	~~6~~
1–7	Thomasson, Léontine	22 Xbre 1848	Chez ses père et mère Cité Popincourt 8	6 Mars 1859	7
1–8	Parent, Blanche Marie	22 avril 1848	Chez sa mère rue Cauchoir à Montmartre	7 8bre 1859	8
1–9	Parent, Laure Adele	1er Mai 1846	id	id	9
1–10	David, Delie	25 9bre 1846	Chez ses père et mère 44 rue des Vinaigriers	3 Février 1855	1
1–11	Lapy, Ernestine	21 Avril 1847	Chez ses parents Chaussée Clignancourt 107	5 Octobre 1857	11
1–12	Read, Agathe	26 Mars 1849	Chez sa mère Chaussée Clignancourt 97	15 Octobre 1857	12
1–13	Leger, Marie	4 Juin 1849	Chez ses père et mère 6 rue des Martyrs	27 Mai 1859	13
1–14	Gaugain, Alexine	11 8bre 1849	Chez sa mère 8 Rue Ste Anne	6 Avril 1859	14
1–15	Larue, Adeline	7 Mars 1849	Chez ses père et mère 8 rue Grangeauxbelles	1e Octobre 1857	15
1–16	Delas, Berthe	5 8bre 1849	Chez ses père et mère 56 rue de Bretagne	10 Mars 1856	16

【表 1】 つづき.

1–17	Barbotti, Marie	20 8bre 1851	Chez ses père et mère rue La rochefoucault 37	25 7bre 1856	17
1–18	Fatou, Angeline	6 Janv 1850	Chez ses père et mère 19 rue du télégraphe à Montmartre	2 mai 1858	18
1–19	Mittocher, Henriette	15 juillet 1849	Chez ses père et mère 12 rue L'écuyer à Montmartre	26 février 1859	19
1–20	Robert, Louise Adrienne	1er 9bre 1848	Chez ses père et mère fg st antoine 127	14 mai 1859	20
1–21	Salomon, Rene Rachel	1er Janv. 1848	Chez ses père et mère R. St Etienne Bonne nouvelle	1er Juillet 1858	21
~~1–22~~	~~Mealot Alphonsine~~	~~10 7bre 1849~~	~~Chez ses père et mère 38 rue Monmartre~~	~~11 Aout 1858~~	~~22~~
1–23	Feuillette, Mélanie Augustine	10 Juin 1850	Chez ses père et mère 78 Bt. De la Chapelle	15 8bre 1857	23
1–24	Lebrun, Anna	10 Avril 1853	Chez ses père et mère 8 rue Ste Anne	11 8bre 1858	24
1–25	Durand, Chéri	15 Mars 1853	Chez samère 9 rue Mazagran	9 Janvier 1860	25
1–26	Mara, Judith	15 Avril 1851	Chez ses parents 100 fg. Poissonnière	30 Juillet 1857	26
1–27	Ribet, Elise	4 7bre 1853	Chez ses père et mère 27, r. des poissonniere Mont.	1 Aout 1859	27
1–28	Vilcoq, Emilié	15 Mai 1852	Chez ses père et mère Place Louvois 2	2 Aout 1857	28
1–29	Gabot, Célestine	5 Janvier 1852	Chez sa mère Rue Blanche 102	29 Mai 1860	29
1–30	Verne, Marie Adèle	18 Août 1849	Chez ses père et mère rue Rochechouart, 38	29 Mai 1860	30
1–31	DedeKer Dardaie, Aline	22 Mai 1852	Chez sa Maraine 9 rue Ne.Dame de Lorette	29 Mai 1860	31
1–32	Davesnes, Henriétte	4 Xbre 1850	Chez ses père et mère Rue du fg. Poissonnière 165	29 Mai 1860	32
1–33	Ttélino, Fanny	21 Juin 1848	Chez son beau frère 47 rue des Vinaigriers	13 7bre	33
1–34	Brebion, Blanche	14 Aout 1850	Marraine 1 (5?) rue des Vignes	id	34
1–35	Primitierio, Henriétt	14 Janv 1850	Chez sa tante 69 Chaussé Clignancourt	id	35

【表 2】 ご祝儀付きの女性ダンサー（第 3 カドリーユ）

	氏名 注）姓 → 名の順	生年月日	父母あるいは保護者の住所	クラスへの入学許可の日付	番号
	Medemoiselles				
2–1	Desvignes, Clémence	7 Février, 1846	Chez sa mère rue de la Félicité 17 Batignolles	5 Mai 1858	1
~~2–2~~	~~Bre (?)ard, Léontine~~	~~18 Avril, 1844~~	~~Chez son père 5 Rue S (?)evis à la Chapelle~~	~~28 8bre 1858~~	~~2~~

【表 2】　つづき.

2–3	Wal, Brunette	23 Xbre 1844	Chez son père et mère 38 Marché neuf	3 7bre 1857	3
2–4	Balson, Marie	3 9bre, 1846	id id 14 Rue folie Méricourt	12 Xbre 1858	4
2–5	Lesage, Camille-Louise	27 7bre, 1844	id id 51 Rue Saintouge	6 8bre 1856	5
2–6	Frumat, Desirée-Reine	16 Avril 1846	id id 3 Rue Margloy	15 Xbre 1855	6
2–7	Simon, Fanny	15 Avril, 1848	Chez sa mère 51 fg. St. Martin	10 Mai 1856	7
2–8	Georgeu (?)lt, Henriette	21 9bre, 1847	Chez son père et mère 57 Rue Constantine	14 9bre 1857	8
~~2–9~~	~~Brach, Caroline~~	~~18 Février, 1847~~	~~id id 51 Rue St Nicolas d'Antin~~	~~6 Juin 1854~~	~~9~~
2–10	Marx, Noémie	15 Février, 1847	id id 100 Faubg. Poissonnière	12 Juin 1856	10
2–11	Valette, Clothilde-Victoria	28 Xbre, 1847	id id 3 Rue del'Empereur	11 Avril 1856	11
2–12	Marconnay, Berthe	1848	Chez sa mère 5 Rue T (?)ouber	1859	12
~~2–13~~	~~Sanlaville, Marie~~	~~8 7bre 1847~~	~~Chez sa Tante 32 Rue Richelieu~~	~~12 Juin 1856~~	~~13~~
2–14	Canet, Anaïs	30 juin 1846	Chez ses père et mère 14 Bt. De Belleville	27 Mai 1856	14
2–15	Billard, Céléne	7 7bre 1848	Chez sa mère 42 fg. Montmartre	7 7bre 1856	15
2–16	Laurency, Marie	3 Mars 1847	Chez sa Sœur 22 Bt. De Strasbourg	3 Février 1856	16
2–17	Piquart, Caroline	9 Janvier, 1849	Chez sa mère foubg. St Denis	7 Mars 1856	17
2–18	Munier, Cinti	29 7bre 1847	Chez sa mère 4 Rue Papillon	2 7bre 1859	18
2–19	Malot, Alphonsine	10 7bre 1849	Chez ses père et mère 38 rue Montmartre	11 Aout 1858	19
2–20	Carben, Henriette	25 juin 1849	Père et mère 23 rue des filles du Calvaire	13 7bre	※
2–21	Lissy, Marie	12 Juillet 1847	Père et mère 99 quai Valmy	id	
2–22	W (?)ol (?)ier, Pauline	21 8bre 1851	Chez sa mère 22 rue des Martyres	id	
2–23	Pallies, Marie	15 Février 1850	Chez sa mère 19 rue Mauen (?)	id	
2–24	Bernhard, Joanne	（記載なし）	（記載なし）	（記載なし）	
2–25	Merante, Adèle	27 Avril 1850	Chez son père 24 rue des Acc (sic)acias	id	

【表 3】　男子生徒

	氏名 注）姓 → 名の順	生年月日	父母あるいは保護者の住所	クラスへの入学許可の日付	番号
3–1	Bretonneau, Eugène Benjamin	12 8bre 1845	Chez son père et Mère 14 Rue des poissonniers	20 Juin 1855	1
3–2	Guillemot, Tony	6 Juillet 1849	id id 136 rue St Maur	7 7bre 1859	2

【表 3】 つづき.

3–3	Tourneus, Alexandre	18 9bre 1845	Chez sa mère 24 Chaussée Clignancourt	1 7bre 1855	3
3–4	Audoul, Maximilien	5 Juillet 1847	Chez ses père et mère 2 Grande Truanderie	13 Avril 1856	4
3–5	Lauigne, Léon, Lucien	1846	id id 9 Rue Lévin	2 8bre 1858	5
3–6	Auconte, Arthur	25 Février 1850	id id 51 route d'anvers	13 Juin 1857	6
3–7	Grangean, Auguste Léopold	25 Aout 1846	id id 11 Rue de Sébastopol	2 8bre 1858	7
3–8	Rust Victor	1849	id id 12 R. Nve des Martyrs	9 Août 1858	8
3–9	Ruault, Léon Napoléon Louis	1er 8bre 1849	Chez sa Tante 48 Rue Fontaine St Georges	20 Juillet 1859	9
3–10	Fourneau, Alexandre	31 Xbre 1847	Chez ses père et mère 27 Faubg. St Martin	10 9bre 1857	10
3–11	Porcheron, Charles	17 Mai 1850	id id 72 Rue Popincourt	12 8bre 1858	11
3–12	Leger, Paul	13 Avril 1851	id id 37 Rue des Beaune	13 Février 1859	12
3–13	Salomon (2e)	（記載なし）	（記載なし）	Carse (?) Volontiairement	
3–14	Josset	1853	Chez son père et mère 3 passage de l'industrie	28 Mai	
3–15	Dumay Emile Clemanséz?	26 Février 1853	Père et Mère 1 Porte st.Denis St Martin	13 7bre	
3–16	Tourneur, Charles	1849	Chez sa mère 45 Chaussé Clignancourt	13 7bre	
3–17	Hiacinthe, Georges	13 Juin 1850	Père et Mère 217 rue St Denis	13 7bre	
3–18	Belin, Alexis	14 mai 1851	Père et Mère 26 rue des martyres	13 bre	

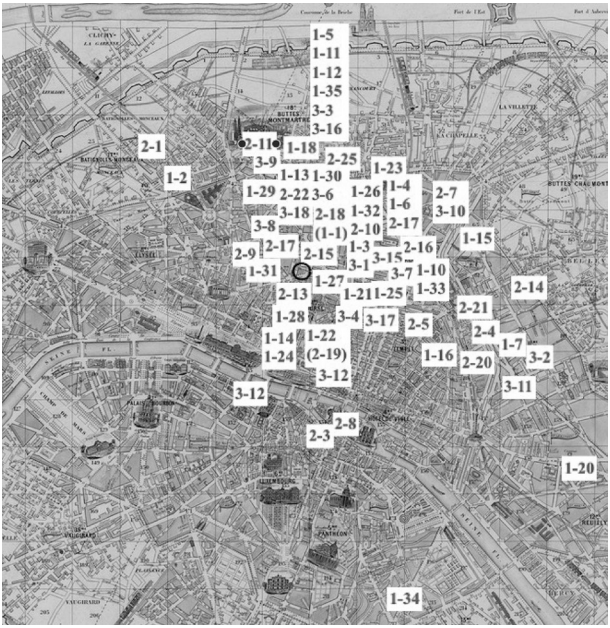
2-3. 居住地の分布

【表 1】から【表 3】に記載された生徒たちの情報について，以下，整理する．最も年上の者は 1844 年生まれの 16 歳（2-2 および 2-3），最も年少の者は 1853 年生まれの 7 歳（1-24, 1-25, 1-27, 3-14 および 3-15）で，ゴーティエや 1860 年のバレエ学校規則の記述と一致するところがあるが，7 歳未満は入学を許可しない，としていた下限の年齢については，厳密なものではなかった可能性がある．入学が許可された日付についても，各々の生徒でばらつきがあり，年に 3 回入学試験を実施するとしていたバレエ学

【図 1】　1860 年のパリ市の地図（J.N. アンリオの作成による）

校の制度が，実際にはどのように運営されていたのか，疑問が残る．

いずれの表においても「父母あるいは保護者の住所」欄で示されているのが，生徒やダンサーたちの居住地である．なぜなら，具体的な住所の前に，「父母宅 Chez ses père et mère」などと記載されていることから，この住所に居住していたと考えられるためである．1860 年のバレエ学校規則集によると，入学のための審査を受けるには，オペラ座のダンス部門，つまりバレエ団の管理部に，市民権を証明する書類を提出する必要があった（AN: AJ/13/479）．したがって，この時に提出された書類などの情報に基づいて，生徒の居住地一覧が作成されたものと考えられる．多くの生徒やダンサーは，父母もしくは近親者（おばや姉妹など）の家を挙げているが，中には義兄（1-33）や代母（1-31, 1-34）が保護者となっている者もおり，その住所を記載している場合も見られる．こうした近親者以外の保護者のもとに居住している場合は，生徒の出生地がパリではなく地方の可能性も



【図 2】　居住地の分布図[6)] ※地図中央の黒丸はオペラ座の位置を示す.

あるが，上述のように，学校入学時に生徒たちがパリ市の市民権の証明書類を提出することを義務付けられていることを考えると，少なくとも入学の時点では，生徒たちはパリ市内に居住していたと考えられる.

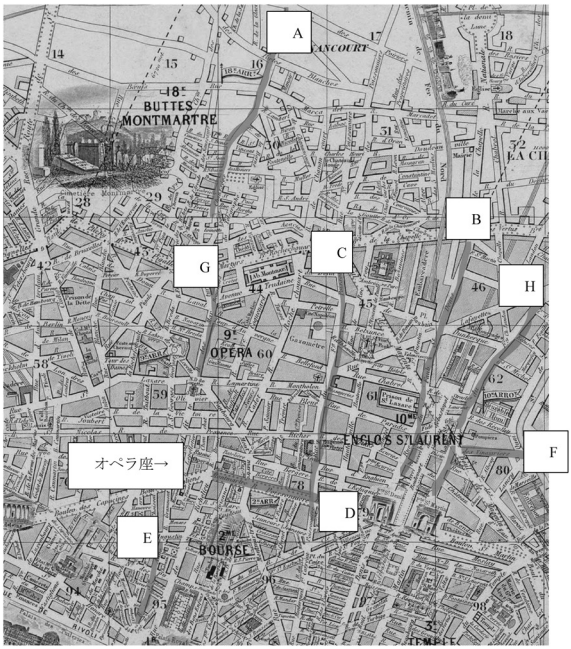
これらの住所の特徴を分析すると，第一に，1860 年のバレエ学校生徒やダンサーたちが，圧倒的にパリ右岸を居住地としている点を挙げられる. 3 つの史料において記載された通りの名は，現在のパリでもそのまま残っていることが多いが，史料と同年に作成された J.N. アンリオ作成のパリの地図（F-Pn : IFN-53085514）と照らし合わせると，多くの生徒やダンサーは，ル・ペルティエ通りのオペラ座より北，あるいは東に居住しており，当時のオペラ座まではおおよそ徒歩 30 分圏内の地域に住所があることがわかる（【図 2】）. 長井（2022: xxxviii）によると，これらの地域には 1886

年でも事業主あるいは労働者が多く，事業主は住民 100 人あたり 2441 人，労働者は 4051 人が居住していたという．

ただし，中には現 2 区のルーヴォワ広場 Place Louvois（1-28）やサンタンヌ通り Rue Saint-Anne（1-14 および 24）のように，オペラ座まで徒歩 10〜15 分圏内に居住している者もいる．また，フォーブール・サン＝タントワーヌ通り f(aubour)g S(ain)t Antoine（1-20）やヴィーニュ通り Rue Vignes（1-34）のような，オペラ座からはかなり離れた住所もある．この 2 つの通りのような場所から劇場まで仮に徒歩で通うとなると，大人の足でも 50 分ほどはかかるため，バレエ学校の生徒は乗合馬車などを使用して通学・通勤していた可能性もあろう．

第二の特徴として，生徒やダンサーたちの中には，近い地域あるいは同じ通りに居住している例が複数見られる．調査対象とした 77 名のうち，番地違いの同一の通りあるいは居住地に，2 名以上の生徒もしくはダンサーが住所を置く例を挙げると，ショッセ・クリニャンクール通り Chaussé Clignancourt（1-5, 1-11, 1-12, 1-35, 3-3, 3-16），フォーブール・サン＝ドニ通り Faubourg Saint-Denis（1-4, 1-6），フォーブール・ポワソニエール通り Faubourg Poissonière（1-26, 1-32, 2-10），ポワソニエール通り Rue des Poissonières（1-3 および 27, 3-1），ヴィネグリエ通り Rue des Vinaigrieres（1-10, 1-33），サンタンヌ通り（1-14 および 24），マルティール通り Rue des Martyres（1-13, 2-22, 3-18），フォーブール・サン＝マルタン通り Faubourg Saint-Martin（2-7, 3-10），モンマルトルのコショワ通り Rue Cauchoir à Montmartre（1-8, 1-9）で，特にショッセ・クリニャンクールの居住率が多い（【図 3】）．

A. ショッセ・クリニャンクール通り
B. フォーブール・サン＝ドニ通り
C. フォーブール・ポワソニエール通り
D. ポワソニエール通り



【図 3】 7) 複数の生徒やダンサーが居住する通り

E. サンタンヌ通り

F. ヴィネグリエ通り

G. マルティール通り

H. フォーブール・サン＝マルタン通り

今日，パリの最も北側である 18 区に位置するクリニャンクールは，元々は徴税請負人の壁の外に位置する城外区であり，1860 年の市域拡大によってパリ市内に組み入れられた．アンリオの地図によると，ショッセ・クリニャンクール通りは当時のマルカデ通りとクリニャンクール通りを接続しており，クリニャンクール通りを南下してロシュシュアール通り，カデ通

りへと進むと，ル・ペルティエ通りの北方向からオペラ座に至る．居住していた生徒やダンサーたちとその家族が，パリ大改造以前からショッセ・クリニャンクール通りに居住していたのか，あるいは改造の影響を被り市域外の地区へ移動せざるを得なかった多くの労働者たちと同様に，当該の通りへ引っ越してきたのか，それは定かではないが，同一の通りに 6 人の生徒およびダンサーが居住している点は注目に値する．

また，同一の通りではないが近隣エリア，すなわち当該史料において「モンマルトル」とされた地域を住所とする生徒およびダンサーも複数見られる．該当するのは，ポワソニエール通り Rue des Poissonières（1-3 および 27, 3-1），テレグラフ通り Rue du Télégraphe（1-18），レキュイエ通り Rue L'Ecuyer（1-19），コショワ通りである．クリニャンクールと同様に，モンマルトルも 1860 年の市域拡大によってその一部がパリ市域に組み込まれた地域であり，もともとパリの中心地に居住していた労働者階級が，移転先として選んだ地域の一つでもあった．したがって，下層階級出身のダンサーたちの家族が，立ち退きを迫られモンマルトルへ移転した，ということも，十分考えられる．

3.　結論

以上，本論ではフランス国立公文書館の AJ/13/479 の文書箱に保存される 3 点の史料から，1860 年のオペラ座付属バレエ学校の生徒およびダンサーの居住地を分析した．これにより，当該時期のバレエ学校の生徒およびダンサーたちの居住地には，①劇場から徒歩 30 分圏内に居住している場合が多数である，②同一の通りあるいは地域に複数の生徒やダンサーが居住している，という 2 つの特徴が見て取れた．

地下鉄やバス，トラムといった交通手段が発達した現在のパリとは異なり，19 世紀のパリでは，移動手段の基本は徒歩，もしくは乗合馬車である．必然的に，生徒やダンサーたちは，その活動の中心地であるオペラ座

やリシェ通りのバレエ学校校舎の近辺に住んでいる場合が多かったと考えられよう．つまり，当時のバレエ学校の生徒やダンサーたちは，職住接近のケースが多いといえる．また，クリニャンクールやモンマルトルなど，1860 年にパリ市に編入された地域に居住しているケースも複数見られる．今回は 77 人の生徒およびダンサーの居住地，という限られたデータの分析に留まったが，都市に生き，生活をする者であるバレエ学校の生徒たちについて，1860 年前後の時期や劇場のその他の被雇用者との比較を行うことで，バレエ学校生徒たちの実態が，より明確になると考えられよう．

注

1) パリ・オペラ座のホームページ「Ecole de danse」https://www.operadeparis.fr/artistes/ecole-de-danse の記述に基づく（2023 年 11 月 27 日最終閲覧）．

2) 『虎の皮』には 1852 年出版の版も存在するが，52 年版には Le Rat が収録されていない．

3) ゴーティエは当初，グリジ本人に思いを寄せていたが，最終的にはグリジの妹で歌手のエルネスティーヌと結婚し，2 人の娘を得た．一方，グリジは《ジゼル》の振付を担当したジュール・ペロー（1810–1892）の公私に渡るパートナーだったが，のちに離婚する．

4) 第 3 カドリーユとして記載されているダンサーたちに対し，「ご祝儀の des feux」との記述がある理由は不明だが，オペラ座の舞台に出演した際に，報酬のようなものを「ご祝儀」という名目で得ていたと思われる．しかし，劇場運営規則であるカイエ・デ・シャルジュや，バレエ学校の規則集などにも，「ご祝儀」に関する詳細な記述がないため，この点に関しては更なる調査が必要だろう．

5) 特に生年月日と入学許可の日付の月の記載に関して，現代の一般的なフランス語とは異なる略記がなされている場合が多い．その場合，“7bre” は 9 月 Septembre，“8br” は 10 月 Octobre, “9bre” は 11 月 Novembre，“Xbre” は 12 月 Décembre を指している．“id” は「同上 idem」の略である．

6) 【図 2】では，【表 1】～【表 3】で示した居住地のうち，通りの名称が完全に確認できたもの，もしくはアンリオの地図上で位置が確認できたものを示している．居住地を特定できなかった 9 名については，図には記載していない．また，同一人物だと思われる 2-18 と 1-1, 2-19 と 1-22 については，いずれも片方の番号を括弧で示した．

7) コショワ通りは 1838 年に行き止まりの道（impasse）として地図中番号 29 の区

域に造られ，1860 年のパリ改造時に道（rue）となった．アンリオの地図には描かれていないため，【図 3】では示していない．

参 考 文 献

AN: AJ/13/479. *Jeunes éléves de la Classe élémentaire au mois d'Avril 1860, Jeunes Demoiselles des Feux (3e quadrille), Jeunes Garçons* 1860.

AN: AJ/13/479 Règlement pour le service du corps des ballets et du conservatoire de danse de l'Opéra, 1860.

AN: AJ/13/1886. *Arrêt du conseil d'état du Roi contenant Règlement pour l'Académie Royale de Musique*. 1784.

F-Pn : IFN-53085514. *Plan de Paris en 1860 divisé en 20 arrondissements [Document cartographique] / gravé... par J.-N. Henriot.* https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b53085514h

F-Pn : NUMM-5749720. Gauthier, Théophile. 1866. « Le Rat » dans *La peau de tigre*. Paris, Michel Lévy, p. 327–348.

Delattre, Emmanuelle. 2013. « L'École de Danse (Ancien régime, révolution, empire) » dans Auclair, Mathias et Ghristi, Christophe (dir.) 2013. *Le Ballet de l'Opéra, Trois siècles de suprématie depuis Louis XIV*. Paris, Albin Michel, p.95–99.

Gauthier, Théophile. « Le Rat » dans Gauthier, Théophile, 1866. *Le Pau de Tigre*, Paris, Michel Lévy frères. Wikisource https://fr.wikisource.org/wiki/Le_Rat_(Gautier)（2023 年 11 月 29 日最終閲覧）

Giroud, Vincent et Serre, Solveig (dir). 2019. *La règlementation de l'Opéra de Paris (1669–2019): édition critique des principaux textes normatifs.* Paris, École nationale des chartes.

Laurens, Camille. 2019. *La petite danseuse de quatorze ans*. Paris, Gallimard.

Jacq-Mioche, Sylvie. 2013. « L'École de Danse (Ancien régime, révolution, empire) » dans Auclair, Mathias et Ghristi, Christophe (dir.) 2013. *Le Ballet de l'Opéra, Trois siècles de suprématie depuis Louis XIV*. Paris, Albin Michel, p.35–37.

Opéra national de Paris. *Ecole de danse* https://www.operadeparis.fr/artistes/ecole-de-danse（2023 年 11 月 27 日最終閲覧）

鹿島茂，2020.『職業別　パリ風俗』東京，白水社.

鹿島茂，2017.『失われたパリの復元　バルザック時代の街を歩く』東京，新潮社.

角田奈歩，2013.『パリの服飾品小売りとモード商』東京，悠書館.

永井玉藻，「【マニアックすぎる】パリ・オペラ座ヒストリー」第 12，22，27，28 回．ウェブメディア「バレエチャンネル」https://balletchannel.jp/genre/historyofoperadeparis（2023 年 11 月 29 日最終閲覧）

長井信仁，2023.『近代パリの社会と政治』東京，勁草書房.

メルシエ，ルイ＝セバスチャン，1989.『一八世紀パリ生活誌タブロー・ド・パリ』（下）原宏編訳，東京，岩波文庫.